

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人栄光会からすたろうの学び家				公表日	令和8年2月27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・子どもたちが集中できるよう場所や机の向きを変えて行っている。 ・定員もしっかりできていて適切にできている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・1対1で支援できている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・部屋の入口にスロープ（歩行困難な子の利用時準備）トイレの踏み台などが準備されている。 ・エアコンの調子が悪く、寒かったり、暑かったりする。 ・障がい児利用の際はバリアフリーを設置できている。段差をさける。	・引き出しや棚、おもちゃの棚等、どこに何があるか、またどこに片づけるものなのか、イラストや写真などでラベリングし明示しています。・車いすを使う方や段差が苦手なお子さんのために、各部屋に木製のスロープを設置しています。ただ、対象利用児がいない日は、取り外し、必要な時は設置する対応をとっています。時折、忘れて慌ててスロープを出すことがありますので、今後は設置する日の忘れが無いよう、スタッフ全員で周知していきます。 ・トイレは手すりや車椅子の入れるスペースを確保した広さになっています。 ・エアコンについては、業者に見てもらいましたが、すぐに直せる程度のものでなく、大がかりな修理が必要とのことで現在見積中です。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・思い切って活動ができるスペースが確保できている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	・自由に行き来できるようにしている。 ・相談室以外にクールダウンできる場所があったらいいと思う。 ・完全に個別の部屋と仕切られているわけではないが、DVD鑑賞や読書ができるスペースが作られている。	・個別で過ごせる部屋を準備しています。 ・視覚的提示やカーテン、パーテーション、本棚などを使って、DVDを見るエリア、勉強をするエリアなど物理的に仕切り、集中できるようにしています。 ・現在クールダウンできる場所としては、相談室、療育室の一角をカーテンで仕切っている場所、アトリエのパソコンコーナーのソファールなどがあります。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	3	・月に一度、スタッフ会議を行い、業務改善に生かしている。 ・振り返りはなかなかできていない。	・毎月のスタッフ会議で、振り返りをしっかり行い、業務改善につなげて行きたいと思えます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・情報共有を行い、保護者の意向を把握するように努めている。改善できるところは改善し、できないことは説明を行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・朝礼、昼礼で意見を言える場を設けられていると思う。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		・外部評価をもとに、業務改善に努めています。また評価についてはHUG上で公表しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・スタッフ間で意見を出し合いながら作成している。 ・手紙配布		

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・スタッフ会議、朝礼、昼礼を通して把握ができるようにしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	・日々の行動や観察などから得た情報を朝礼で話し合い、記録し、全スタッフが確認できるようにしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	・やってみたい活動等を聞きながら計画を立てている。	・大まかな組み立てはリーダーがやっていますが、その季節にしかできないことやタイミングなどに合わせ他のスタッフのアイデアも取り入れながらチームで立案しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・子どもたちのやりたいかどうについて、意見をもらい取り入れることで固定化しないようにしている。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・当日入るスタッフに活動内容、役割分担、子どもの情報について共有している。 ・朝礼、昼礼で子どもの特記を伝えたり、活動についてや支援について伝達している。 ・朝礼でできている部分もあるが、もう少しできたらと思う。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	・中零時にミーティングを行い、気づいた点などを共有している。 ・もっと互いに意見を出していけたらいいなと思う。 ・朝礼、昼礼等で情報共有、意見交換を行っている。 ・入力時に伝達したり、翌朝の朝礼で共有している。 ・その日の活動報告がよくできる。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・HUGに記入 ・支援をして→こうなったという記録がもっと残せたらいいと思う。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6				
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	・研修を受講し、情報収集に努めたり、不登校支援の話に参加したり、地域の現状の情報収集を行っている。 ・保育所等訪問や情報交換会を毎月行っている。	・保育所等訪問や情報交換など保育所や学校と連携を取っています。また親子相談「にじいろのたね」では保健師による子育てや家庭の悩みの相談も受け付けております。	

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1		・保育所等訪問支援や情報交換会を通じて、移行支援がスムーズにいくよう情報を共有しています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		・進学する学校の先生に情報共有を行っている。 ・昨年末に小学校との情報交換会を実施している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	1	無回答 2	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	・園から遊びに来る程度で、交流というほどのことはしていない。	・ミュージックフェスタや夏休み自由研究体験講座、老人ホーム慰問(感染症蔓延のため中止)など地域の中で他のこどもと活動しています。 ・森のまつりで地域の子どもたちも自由に来所し、交流する機会を設けています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・面談時や送迎時、サービス提供記録に記入しその内容をスタッフに共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	・親子参加型の療育の日を設けてもよさそう。 ・計画書の閲覧ができるようお知らせがきている。	・ペア・トレはまだ取り組んではいませんが、今後研修や実践を重ね家族支援ができるよう邁進してまいります。
	保護者への説明	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		
36		児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
37		「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		・HUGのアプリで支援内容について確認していただきサインをもらっている。	
38		定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
39		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	・父母会、保護者会が存在しないので交流する機会はない。 ・保護者会の交流の場となっていると思われるのが、森のまつりや、親子キャンプではないかと思う。	・名称としては「父母会」「保護者会」とうたってはいませんが、森のまつりや親子キャンプで保護者同士が交流する機会を設けています。
40		こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			

寺	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・ HUGやインスタで発信している。 ・ 個人が特定されないよう、顔を隠している。 ・ お便り、ラインなど活用している。 ・ 月の便りやインスタを通して配信している。 	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の状況にあわせて重要度の高い内容や期日の迫った内容は電話をするなど、ぬげがないように努めている。 	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 森のまつり ・ イベントの際には案内を出して参加していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森のまつりや夏休み自由研究講座など地域住民の方を巻き込んで、イベントを開催しています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 無回答 1 ・ 家族への周知ができていない。 ・ 周知、頻度にばらつきがある。 	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修等で確認、共有している。 	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食物アレルギーの有無を確認し全スタッフが確認できるようにしている。 ・ アレルギーがある児童は共有している。 ・ 食物アレルギーのあいまいな児童もいる。適切な対応のためにもしっかり把握が必要。 ・ 保護者からの情報をもとにアレルギー等には気をつけている。医師の指示書がある子とない子がいる。 ・ アンケートを作成し提出していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントやアレルギーアンケートなどで、子どものアレルギーについては確認できるようにしています。医師の指示書については、保護者にお任せしている部分もあり、医師の指示書のないお子さんもいます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理に必要な研修や訓練を実施している。 	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ HUGで実施した内容について周知している。 ・ 確実に周知しているとは言い難い。 	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアル、記入様式を作成。 ・ ヒヤリハット報告は共有されていないと感じる。 ・ ヒヤリハットの意識、意味を周知すべき。 ・ 安全点検を行いヒヤリハット場所をしっかりと把握し点検している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハット報告書を作成し、スタッフ全員で周知できるよう取り組みを始めました。今までも、ヒヤリとした場面については朝礼などで共有してはいましたが、きちんと書面に残すことや、気づけていないこともあったと思います。ヒヤリハットは重大な事故を未然に防ぐための重要な兆候であるという認識を持ち、スタッフ全員で周知徹底していきたいと思います。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修を行って、虐待防止につながっている。 	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				